

# 令和6年度 泉が丘小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

## 1 教育目標（目指す児童像含む）

よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となれるように、確かな学力と豊かな心、健やかな体をもち、これからの社会を力強く生き抜くことができる力をもった、たくましい児童を育成する。

- ・ 進んで学び、基礎・基本をしっかり身につける子 （しっかり学ぶ 泉っ子）
- ・ 学びをもとに考え、問題解決ができる子 （よりよく生かす 泉っ子）
- ・ 自分の生き方を考え、誠実で思いやりがある子 （なかよく生きる 泉っ子）
- ・ 健康や安全に気をつけ、元気に生活できる子 （元気でがんばる 泉っ子）

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「児童一人一人が、みんなとともに生き生きと輝く学校」を目指す。

- ・ 児童が夢と希望をもち、明るく活気に満ちた学校
- ・ 気持ちのよい環境で、温かい心の触れ合いにあふれ、仲間とともに仲よく学べる学校
- ・ 家庭・地域と連携した教育活動を推進し、信頼される学校

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

### （1）一人一人を大切に、全人教育を目指す学校 【一人一人の児童を大切にしよう】

一人一人の児童について知・徳・体の調和のとれた成長を促すとともに、個人及び公民的資質の伸長を図り、教育目標の具現に努める。

### （2）これからの社会を力強く生き抜くために必要となる資質・能力をしっかりと育成する学校

#### 【日々の授業に力を尽くそう】

全ての教科領域で、「基礎的・基本的な知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指し、「主体的・対話的で深い学び」を通じた質の高い教育の充実に努める。

### （3）児童の思いを豊かにする学校 【子供が通いたくなる学校・学級をつくろう】

豊かな感性を育て、互いに高め合える学級集団の育成を推進し、いじめ・不登校・集団不適應等、児童指導上の課題解決に努める。

### （4）創意ある「社会に開かれた教育課程」を編成・実施し、家庭・地域に信頼される学校

#### 【地域や保護者と共に子供たちの未来を考えよう】

伝統ある校風を基盤に、児童・保護者・地域の実態や思いを共有し、創造的・計画的に連携を進めて、地域の信頼と要請に応え、公教育の使命を果たすように努める。小中一貫教育の推進にも積極的に取り組む。

### （5）教職員が自ら学び生き生きと勤務する学校 【自ら学び生き生きと働こう】

教職員としての自覚と使命感を持って、一人一人が絶えず研究と修養に努めるとともに、教師自身の生活の質を改善し、生き生きと働けるようにする。

#### 【泉が丘地域学校園教育ビジョン】

望ましい人間関係をつくり、進んで学び合う児童生徒の育成 ～学びの泉 おもいやりの泉 げんきの泉～  
泉が丘中・今泉小・泉が丘小の3校が連携・一貫して「学び・共に行動し・鍛える」教育活動に取り組むことにより、3校共通の学校経営の重点である「児童生徒の人間関係構築力」の育成を図り、相互に関わり合いながら「共に学ぶこと」「共に行動すること」「共に生きること」について考えさせることにより、各校における教育課程実践の充実・深化を図る。

#### 4 教育課程編成の方針

- (1) 学校教育目標達成のために設定された学校経営の理念及び学校経営の方針、地域学校園の教育ビジョン、今年度の重点目標、今年度の努力点や具体策を踏まえ、全教育課程に意図的・計画的・系統的にその具現化を図るため、教科等横断的な視点に立って編成する。
- (2) 児童の学校生活の場として設定している、朝の活動、授業時間（各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間＜泉の時間＞、特別活動）、休み時間（業間、昼休みを含む）、給食の時間、清掃の時間を基本的な枠組みとして教育課程を編成し、各教育活動相互の関連とその配置のバランスを図り、時数を確保する。
- (3) 年間的な枠組みとしての2学期制をもとに、教育内容の設定と授業・教育活動時間相互の有機的な関連、及び効果的な教育活動の規模等について、計画的かつ重点化が図られ、柔軟性をもちながら機能的であり、教育活動全体として一貫性を確保しながら調和のとれた実施計画を作成することにより、学校教育目標の達成を図る。

#### 5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

##### (1) 学校運営 **グローバル社会に向き合うとともに、郷土愛を醸成する教育の推進**

- ① 学習指導の充実（学力向上）を図ることを最優先と位置づけ、新学習指導要領の趣旨を理解し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた日々の授業改善の推進を大きな柱として取り組む。
  - ・ 「令和の日本型学校教育」構想のもと ICT を活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業推進に取り組む。
- ② 「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。
  - ・ 学校経営方針、具体策、本年度の重点目標への取組の様子等を今まで以上に保護者、地域に広く周知していく。新たな課題解決に向けた授業や学校行事等の取組を学校 HP や学校だより、学年だより等で積極的に紹介し、保護者・地域住民の理解と協力を促す。
- ③ 泉が丘地域学校園の小中一貫教育、地域の教育資源の積極的な活用により「学校力」のさらなる向上を図る。
  - ・ 地域の教育力を生かした教育活動（地域人材や教育資源の活用等）を積極的に展開し、「地域とともにある学校づくり」を着実に推進する。
- ④ 勤務時間を意識した働き方改革を推進し、校内の業務の適正化・明確化・効率化を図る。
  - ・ 日常業務の精選や行事・日課の見直し、ICT活用による労力軽減を推進し、限られた時間の中で児童と向き合う時間を確保して適切な指導を行えるようにする。
  - ・ 働き方への教職員の意識改革を進め、自己の充実を図る。

##### (2) 学習指導 **確かな学力の育成**

単元や題材のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

- ① 教師が、児童に身に付けさせたい力を明確に認識しておくとともに、授業の目標（めあて・ねらい）を児童自身が確認できるようにし、学習計画をもとにした学習の見通しをはっきりもたせた上で、各教科等の「見方・考え方」を働かせて課題にじっくり取り組めるよう、発問や学習活動を工夫する。
- ② 思考力・判断力・表現力育成につながる「自分の考えを書く活動」の習慣化やそれを基に、「聞く・話す」等言語に係る基本的な能力・技能を身に付けさせる「説明」「話し合い」活動を充実させる。
- ③ 本時の目標や評価規準に基づいたまとめや振り返りを確実に行うことにより、児童に「何を学んだのか」を実感させるとともに、振り返りに対する具体的な言葉かけを行い、学習意欲や主体的に学習する態度等を養う。
- ④ 高学年での教科担任制を積極的に推進し、専門性の高い授業展開や効率的な授業研究を行う。

個別最適な学びと協働的な学びの融合を図った授業の推進

- ① 情報活用能力等の学習の基盤となる基礎的基本的な資質・能力等を土台とし、ICT 機器を効果的に活用しながら、一人一人の興味・関心・能力に応じた学習活動や学習課題に取り組む学びを充実させるとともに、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら課題に取り組む態度を養う。

- ② プログラミング学習を生かした論理的な思考の育成を図るとともに、教科横断的な視点に立って現代的な課題の解決を図ろうとする学習活動を充実させる。
- ③ 一人一台端末の活用を通して、情報活用能力の定着を図るとともに、よりよい情報の使い手を目指すデジタルシティズンシップ教育を推進する。

### (3) 児童生徒指導 豊かな心を育む教育の推進

- ① 心の教育の充実により、自信や自己肯定感・自己有用感、規範意識、思いやり等を育成するとともに、これからの社会において特に必要となる、多様な他者とともに協働しながら目標に向かって挑戦するたくましさ等を養う。
- ② いじめをはじめとする問題行動や不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に向けて、教職員が組織的に対応できる体制づくりを推進する。
- ③ 複雑化する問題へ対処するために家庭との協力はもとより、地域社会・関係機関とも連携を強化した取組の充実を図る。

### (4) 健康（保健安全・食育）・体力 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進

- ① 生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成するために、自らの健康面や体力面のよさや課題を把握し、自分に応じたためあてを設定し、健康（体力・保健・食・安全）について進んで活動に取り組むことができる児童の育成を目指す。
- ② 運動に親しもうとする態度や能力のより一層の育成を目指し、児童の発達段階や実態に応じた運動量を確保した授業（特に投力・持久力向上に向けた運動）、休み時間を活用した運動イベントの企画等の工夫（運動委員会主催等）により運動機会を創出することで、運動の日常化を図る。
- ③ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を定着させるとともに、感染症等の予防についても正しく理解させ、適切な行動をとることができるようにする等、健康で安全な生活を送れるよう指導する。
- ④ 安全教育・安全指導を充実し、危険に対して自らの身を守る行動がとれる児童の育成を目指す。

### (5) 特色ある学校づくり等に関する取組

#### ①育てたい資質・能力

- ・ 基礎・基本をしっかり身に付け進んで学ぼうとする態度を育成する。（しっかり学ぶ 泉っ子）
- ・ 学びを生かして考え、新たな課題解決に向かおうとする資質・能力を育成する。  
(よりよく生かす 泉っ子)
- ・ 自分の生き方を考え、誰に対しても誠実に思いやりをもって接する態度を育成する。  
(なかよく生きる 泉っ子)
- ・ 健康や安全に気を付け、進んで運動しようとする態度を育成する。（元気でがんばる 泉っ子）

#### ②具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

#### しっかり学ぶ

- ・ 家庭学習の充実を図り、基礎基本の定着を目指す。
- ◇ 学習センターとしての図書室機能の充実を図り、確かな情報収集・処理能力を育成する。

#### よりよく生かす

- ◇ ICT 機器の効果的な活用を推進し、課題解決能力の向上を図る。
- ◇ 職業人を招いたキャリア学習を通して、自らの生き方を考える機会を設ける。
- ◇ 小中連携活動を推進し、中学校への期待を高め目標を持たせる。

#### なかよく生きる

- ◇ 本に親しませ豊かな情操を育む。（読み聞かせ、ICC 文庫）
- ◇ 栽培活動を充実させ、体験活動や地域との交流体験を実施する。
  - ・ 各学年の越戸川清掃活動を通し、勤労・ボランティア精神の涵養を図るとともに、郷土愛を育む。
- ◇ 縦割り班活動を推進し、異学年交流を通して、リーダーシップやフォロアーシップを育成する。
- ◇ 明るい挨拶が響き合う学校を目指し、あいさつ運動を推進する。

#### 元気でがんばる

- ◇ 目的をもって運動に取り組み、運動に親しむ環境づくりを行う。
- 健康チェックカード、検定カード、頑張りカード等を活用し、健康の保持増進と体力向上への意欲を高める。

**6 自己評価** A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A**拡充** B**継続** C**縮小・廃止**, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考える等、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「私は、学習課題を解決するために、友達と話したり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①学習活動の中でグループ学習や友達と意見を伝え合う活動を取り入れることで、自分の考えを深めたり広げたりできるような機会を設ける。</p> <p>②児童の実社会や実生活に関連した教材・教具を用いる等、児童の興味・関心を高める工夫をする。</p> <p>③1人1台端末や図書資料等から、必要な情報を収集し活用する学習活動を適宜設定し、進んで学習に取り組むことができる環境を整える。</p> <p>④発達段階に応じた自主学習を推進し、「家庭学習の手引き(泉が丘地域学校園版)」の活用による家庭学習の習慣化に努める。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は90.9%であり、十分達成している。</p> <p>【次年度の方針】 今年度に引き続き、授業の中でグループ学習や友達と意見を伝え合う活動を適宜取り入れ、自分の考えを広げたり深めたりする機会を設ける。 主体的に課題解決に取り組めるよう、必要な情報を集めるための媒体(端末の利用や図書資料の利用)を自分で選択する等の発達段階に応じた学習活動の工夫を行う。 「家庭学習の手引き(泉が丘地域学校園版)」を活用した自主学習の推進を図る。</p>
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童(生徒)は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①道徳的価値を実生活の中から捉えられるような道徳科の授業を実践し、生命を尊重する心や人を思いやる心の涵養を図る。</p> <p>②係活動や当番活動、縦割り班活動等、周囲のために活動する場を積極的に設定し、自己有用感を高める。</p> <p>③人権に関する作文や標語、四コママンガを作成し、効果的に掲示することにより、人権尊重の精神を涵養する。</p>	B	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は94.9%で、昨年度の94.2%と同程度で、高い達成状況である。</p> <p>【次年度の方針】 今年度の取組を継続しながら、全校児童集会や縦割り班活動の内容を工夫し、児童がふれ合える場を設定するとともに、学級における認め合いの場の充実を図る。</p>
	<p>A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①本時のめあてを明示し、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組むことができるよう配慮し、「よく考えた、分かった、できた」という喜びを味わえる授業づくりに努める。</p> <p>②児童が自己肯定感を高められるよう、係活動や委員会活動等で活躍できる機会を工夫して設けていくとともに、各種集会や帰りの会等で互いのよさや努力を認め、称賛する機会を積極的に設ける。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定回答は88.3%で、前年度の88.9%を若干下回ったものの、引き続き高い達成状況である。</p> <p>【次年度の方針】 今年度の取組を継続しながら、児童が達成感や成就感を味わえるような活動を取り入れ、粘り強く頑張ることのできる心を育てていく。また、児童の主体性を重視した活動や互いのよさを認め合う機会を設ける等、工夫改善を続けていく。</p>

<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①保健委員会からの呼び掛けや生活習慣チェック等を通して、児童が自分の健康状態を意識し、生活習慣（食事・運動・歯磨き・感染症の予防等）を見直していけるようにする。 ②交通安全、生活安全、災害安全について、避難訓練や交通安全教室等を通して指導し、自分の身は自分で守る意識を高め、適切な判断力と行動力を身に付けさせる。 ③学習内容に合わせて栄養教諭や家庭と連携を図りながら、バランスのとれた食事や望ましい食生活の醸成を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 90.9%で、目標を達成した。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していくとともに、感染症の流行が落ち着いたため、その他の健康に関する内容についても、児童の意識が高まる取組を行っていく。 校舎内での不注意によるけがが多いことから、日常生活における校内安全の取組を強化する。 食育指導においては、マナー面の指導だけでなく、健康面についての指導もバランスよく行っていきたい。</p>
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りや協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①日々の活動について、キャリアパスポートで設定しためあてに沿って振り返る時間を設け、記録を蓄積し、自分自身のよさや成長を実感できるように努める。 ②係活動や当番活動等、周囲のために活動する場を積極的に設け、称賛することで自己有用感を高める。 ③縦割り班活動や児童会活動等の充実を図り、異年齢集団と関わる場を通して、上学年から学んだり下学年の支えになったりするよさを実感できるように支援する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 88.6%で目標を達成した。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。 キャリアパスポートや道徳ファイルの記録の蓄積をととして、児童の自己理解を高め、自己肯定感を育てていく。 係活動や当番活動等、誰もが活躍できる場を設定するとともに、活動の途中で振り返りの時間を確保し、意欲をもって活動を継続できるように努める。 縦割り班活動や高学年による低学年へのお世話活動により、高学年児童の自己肯定感や自己有用感を育む。</p>
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①児童が英語に慣れ親しむ機会が多くなるよう、英語でのやり取りを中心とした授業を展開する。 ②ALTをあらゆる場面で活用し、外国語科・外国語活動の授業改善の工夫や生きた英語に触れる機会の充実を図る。 ③本校として大切にしている『Smile, EyeContact, ClearVoice, Response』の4点を意識した児童のやりとりを全体に共有して称賛したり、児童が達成感や満足感を味わえる声掛けをしたりすることで、言語活動の充実を図り、進んで英語を使おうとする態度を養う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 83.1%で数値目標をやや下回ったが、昨年度と比較すると向上した。 【次年度の方針】 まずは、児童が英語の音声聞くインプットの時間を十分に設定し、発話に慣れ親しむ学習活動の工夫・授業改善に取り組むことで児童の安心感を高めていく。 「4つの大切」を意識した話し合い活動や発表は児童に浸透してきているため、日常のALTとの交流においても、笑顔やリアクション等について称賛し、児童の自信につなげる支援を行う。</p>
<p>A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①社会科・総合的な学習の時間における「宇都宮学」の充実を図り、郷土への愛情と誇りの醸成に努める。 ②各教科・領域と宇都宮学とを関連付け、児童が宇都宮の良さを実感できるように、学年に応じて指導する。 ③宇都宮産の食材を使った給食を栄養教諭により紹介することで、地域の良さに気付かせ、郷土への関心を高める。 ④道徳科の授業において、「道徳科地域教材」を活用し、郷土愛について考える時間を設ける。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 87.1%で十分達成している。 【次年度の方針】 今年度に引き続き、生活科や社会科、総合的な学習の時間等において、「宇都宮学」と関連付けた授業を実践するとともに、日常生活に結び付いた宇都宮の話題に触れる機会を設ける。 毎日の給食時に放送される「一口メモ」においても、郷土料理や地産地消、特産品についての話題を提供しながら郷土愛を育てていく。</p>	

<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、パソコンや図書等を 学習に活用している。」⇒児童 の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①教職員が ICT 機器の特性を知り、授 業で効果的に活用できるよう、校内 研修等で技能向上を図る。(新しい 機能やツール、児童用デジタル教科 書の活用等) ②GIGA スクール構想における 1 人 1 台端末の活用について、児童が端末 に慣れ親しみ、学校や家庭で適切に 活用することができるよう、授業に おいて計画的に指導する。 ③各教科及び各種年間指導計画に図 書館の利用を適切に位置付けると ともに、司書と連携を図り、学習に 活用するための図書資料を計画的 に準備し、学習環境を整える。 ④学年に応じて情報モラル・デジタル シティズンシップの指導も行い、1 人 1 台端末等を正しく活用でき るように指導する。 ⑤ICT 機器を活用した児童の活動の様 子を、学校HPや各種だより等で積 極的に発信していく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 90.3%で、目標 を達成した。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続しながら、ICT 機 器の効果的な活用について、学年の実態 に応じて実践を積み重ね研究していく。 1人1台端末の活用が進んだ一方、ネ ットトラブルも増えているため、「デジ タルシティズンシップ」の指導を強化 し、端末を正しく活用できるようにす る。 教科書改訂に伴い、各種年間指導計画 の見直しを図り、司書と連携して図書館 の計画的な活用ができるようにする。</p>
<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A 9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、『持続可能な社会』に ついて、関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①授業での該当単元において、SDGs と の関連を図りながら身の回りの課 題を探究的に解決していくことに より、地域や社会に目を向け、積極 的に社会に参画しようとする態度 を養う。 ②広報・福祉 JRC・掲示委員会の児童 が各委員会の取組と SDGs につな がる活動を紹介したり、掲示を工夫し たりする等、全校生への周知・啓発 を図る。 ③環境問題やエネルギー問題等から、 節電や節水、リサイクル等に取り組 む習慣を身に付けさせ、「持続可能 な社会」につながることを指導して いく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 89.6%で、目標を 達成した。 【次年度の方針】 授業や様々な教育活動の中で、持続可 能な社会を実現するための話題を取り 上げ、考える時間を設ける。 委員会活動で実践している資源回収 やベルマーク回収、節電・節水の必要性 について、児童が自分事として考えをも つことができるよう、指導・支援を続け る。</p>
<p>3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p>	<p>A 10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必 要とする児童（生徒）の実態 に応じて、適切な支援をして いる。」⇒職員の肯定的回答 95%</p>	<p>①特別な支援が必要な児童の実態や 支援の手立てについて、全職員で共 通理解を図り、迅速かつ組織的な対 応にあたる。 ②特別支援学級に限らず、通常の学級 においても特別な支援を必要とす る児童について、個別の指導計画を 作成し、全職員で共有し計画に基づ いた支援を行う。 ③特別支援コーディネーターや担任 との連携のもと、かがやきルームの 効果的活用を図るとともに、少人数 指導等、個に応じた指導の充実に努 める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%であり、 目標を達成した。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。 校内児童支援委員会を活用し、特別 な支援が必要な児童の実態や支援の手 立てについて共通理解を図り、必要に 応じて適宜ケース会議を設定する。迅 速かつ組織的な対応ができるよう配 慮する。 特別な支援を要する児童について、 個別の指導計画を作成し、児童の実 態に応じた適切な支援を行うように する。</p>

<p>3-(2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であること を指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」⇒児童の肯定的回答95%以上</p>	<p>①いじめは絶対に許されないという考えのもと、教職員によるいじめ防止に関する日常的な指導や「泉が丘小さいじめ防止基本方針」に基づいた組織的・計画的な取組を推進する。 ②いじめアンケート、教育相談を通して、いじめの早期発見に努めるとともに、被害者の立場に立って継続的に関わることにより、確実な解消を目指す。 ③児童会が主体となって、呼びかけやポスター掲示等による「いじめゼロ運動」を展開し、一人一人がいじめに対する正しい判断力や行動力を持つことができるようにする。 ④人権に関する作文や標語、四コママンガを作成し、効果的に掲示することにより、人権尊重の精神を涵養する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は97.3%で、目標を達成した。 【次年度の方針】 教職員によるいじめ防止に関する日常的な指導や「泉が丘小さいじめ防止基本方針」に基づいた組織的・計画的な取組を推進する。いじめの未然防止、早期発見・早期対応のための全児童対象としたいじめの実態調査を年4回実施する。実施後は教職員間で共有し、必要に応じてケース会議を開き、児童への支援方法や再発防止策を考えていく。 児童会が主体となっていじめゼロ運動や人権に関する啓発運動を行い、一人一人がいじめや人権に対する正しい判断力や行動力をもつことができるよう指導・支援していく。</p>
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」⇒職員の肯定的回答95%以上</p>	<p>①道徳科の授業を通して、心の教育の充実を図る。 ②児童が自己肯定感や自己有用感を高められるよう、帰りの会等で互いのよさや努力を認め合う機会を設けるとともに、係活動や委員会活動で児童一人一人が活躍できる場の設定を工夫する。 ③Q-U等を生かした学級集団の実態把握と分析を行い、どの児童にとっても自分の居場所となるような温かな雰囲気学の学級経営に努める。 ④スクールカウンセラー等を活用した教育相談体制やケース会議の充実を図るとともに、早期に問題意識の共有をし、児童の心のケアを行う等、学校全体で迅速に対応する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%だった。 【次年度の方針】 基本的には今年度の取組を継続していくが、保護者の肯定的回答が88.2%のため、学校の取組について、より保護者に周知できるよう努めていく。 道徳科等の授業を通して、心の教育の充実を図る。 児童が自己肯定感を高められるよう、一人一人のよさを発揮できる場を設定したり、授業・帰りの会等で児童のよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設けたりする。 Q-U等を生かした学級集団の実態把握と分析を行い、学業指導の考えに基づき、帰属意識と規範意識を高める学級経営を行う。 保護者の要望をよく聞き、新たな不登校を生まない取組を推進するとともに、年2回の教育相談、スクールカウンセラー等を活用した教育相談体制の充実を図り、児童の心のケアに努める。</p>
<p>3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実  3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、児童（生徒）の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童生徒が明るくいいきと学校生活を送れるようにしている。」⇒保護者の肯定的回答90%以上</p>	<p>①学校行事や縦割り班活動に、児童の願いや思いを反映させ、意欲的に参加できるようにする。 ②児童が、互いの国籍や文化の違い等を認め合い尊重しながら生活できる態度を育てる。 ③学校生活アンケートやQ-U、年間2回の教育相談を実施し、問題行動の早期発見に努める。 ④児童が一人一人のよさを発揮し、自己肯定感を高められるよう、授業や帰りの会等で児童のよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設ける。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は、86.6%で、目標の90%を下回った。 【次年度の方針】 学校行事や縦割り班活動では、児童の主体性や創造性を大切にしながら、意欲的に参加できるようにする。 児童一人一人の人権を大切にするとともに、授業や帰りの会等において、児童のよさや努力を積極的に認める場を設け、児童の自己肯定感を高められるようにする。また、児童の悩みに寄り添い、問題の早期発見・解決に努め、よりよい学級経営を行い、保護者と情報を共有できるようにする。</p>

<p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫する等、きめ細かな指導をしている。」⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①本時のめあて（育成を目指す資質・能力）を明確にし、各教科等における見方・考え方を働かせながら主体的・対話的で深い学びを実現し、振り返りを通して児童が達成感を得られるような「分かる授業」の実践に努める。</p> <p>②発達段階に応じた個別最適な学びと協働的な学びの機会を設けることにより、基礎・基本を確実に習得させ、あらゆる場面で活用できる力を育成する。また、1人1台端末を有効に活用する。</p> <p>③授業公開の充実を図り、研究成果を教職員が伝え合うことで、学校全体の指導力向上を図っていく。また、成果や課題について相互に意見を交換し、理解し合う機会を繰り返し設けていく。</p>	<p>【達成状況】 児童は 96.2%、保護者は 85.8%の肯定的回答で数値目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。 本時のめあてを明確にし、授業の見通しをもって課題解決ができるようにする。また、個別最適な学びと協働的な学びを意識した学習形態を工夫することで、児童が主体的・対話的で深い学びを実現できるよう支援する。 授業や単元のまとめには、児童一人一人が本時の学びを達成した振り返りができるよう、適宜個別指導を取り入れる。 児童の基礎基本の定着や活用を図り、確かな学力を身に付けることができるよう、効果的な指導法や支援のあり方について、教職員間で活発に意見を出し合い、共有していく。</p>
<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①すべての教職員が学校経営方針や学校課題を理解し、それぞれの役割を自覚しながら協働的に取り組むことによって、学校教育目標の達成を目指す。</p> <p>②教職員の同僚性を大切にし、互いの持ち味や専門性を生かしたチームワークづくりに努める。</p> <p>③報告・連絡・相談を徹底し、問題の把握と適切な対応に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%で目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 学校経営計画（グランドデザイン）を基に、担当する校務分掌において、個々の専門性を生かしながら質の向上を目指すとともに、連携・協力をさらに深め業務の円滑化に努めていく。 事務職員・司書・栄養教諭・養護教諭・少人数指導・専科教員・かがやきルーム担当、サテライト担当、スクールカウンセラー等と連携を密にした教育環境整備や児童支援を行う。 相談しやすい職員室の雰囲気や環境づくりをし、課題や問題に対して組織的に対応し、早期に解決できる体制を整える。</p>
<p>4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①毎週火・木・金曜日の短縮日課を継続し、放課後の時間を有効に活用する。その効果を検証しながら、教職員一人一人が、ワークライフバランスの重要性を考え、業務の効率化に努めるとともに、月2回のリフレッシュデーを取り入れた勤務環境を構築する。</p> <p>②ミライムや学習情報システム、さくら連絡網等のネットワークソフトウェアを活用し、日報の電子掲示、学校日誌の入力軽減、週案の電子化、ペーパーレス化等に取り組みながら、業務の効率化を図る。</p> <p>③教員の負担軽減に向け、各種行事や活動について、学年主任会や打ち合わせによる合意形成を図った上で、改善や見直しを行う。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 89.6%で目標を達成した。昨年度を 7.8 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 現在の日課の継続、日直業務の精選、リフレッシュデーの設定等により、放課後、業務にあたる時間を確保することで、教材研究を充実させ、授業内容の質や指導力の向上を図っていく。 ミライムや学習情報システム、さくら連絡網等のネットワークソフトウェアを活用し、日報の電子掲示、学校日誌の入力軽減、打合せ記録・週案の電子化、ペーパーレス化等に取り組み、事務に費やす時間の短縮化を図っていく。 教職員で業務改善に向けた意見を出し合い、具体的に改善に取り組むとともに、教職員一人一人のさらなる意識改革を目指す。</p>

<p>5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教 育・地域学校園」の取組 を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、「小中一貫教育・地 域学校園」の取組を行ってい る。」⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①泉が丘地域学校園教育ビジョンに 基づき、児童の人間関係構築力の育 成を重点として小中一貫教育を実 践する。 ②各校の効率的な学校運営を支援す るため、学校一人配置職員の連携を 密にし、学校園で一貫した事務室運 営や保健指導、食育等の取組を推進 する。 ③小中合同の授業力向上プロジェク トや児童生徒指導強化連絡会の充 実を図り、学校園として学力や児童 生徒指導力の向上を目指す。 ④小中合同清掃や乗り入れ授業、特別 支援学級交流会等、小中が連携して 行っている教育活動について学校 HPや各種たより等を通じて周知 する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%で昨年 度を11.4ポイント上回った。 【次年度の方針】【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%で昨年 度を11.4ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き地域学校園内の小中学校と 連携し、各部会・分科会で協働しなが ら小中一貫のカリキュラムの取組の充 実を図る。 一人配置職員の連携を密にし、実践可 能な校務運営と教育活動を計画・実践 していく。 小中合同清掃や乗り入れ授業、宮っこ チャレンジの受入れ、合同あいさつ運 動、特別支援学級交流会等、小中が連携 して行っている教育活動について学校 HPや各種たより等を通じて積極的に 情報発信し、「小中一貫教育」の取り組 みへの理解を高めていく。</p>
<p>5- (2) 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進 5- (3) 地域と連 携・協働し た学校づく りの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・ 企業等と連携・協力して、 教育活動や学校運営の充 実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業 等と連携・協力して、教育活 動や学校運営の充実を図って いる。」⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①地域協議会を中心に地域と学校が 目標を共有し、実施可能な教育活動 を検討し、一体となって学習活動や 環境整備の充実を図る。 ②地域から学校支援ボランティアを 募集し、地域との協働体制の充実を 図るとともに、ご協力いただいで いる活動の様子を校内掲示や学校HP 、学校だより等で広く周知する。 また、振り返りの場を設け、礼状を 書く等して児童に感謝の気持ちをも たせる。 ③企業等との連携を図った体験型学 習を積極的に実施する。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は100%で、目標 を達成した。 【次年度の方針】【達成状況】 保護者の肯定的回答は100%で、目標 を達成した。 【次年度の方針】 地域協議会や民児協関係者との情報 交換会で授業力向上や児童指導に関 する情報の共有を図りながら地域との連 携をさらに高めていく。 読み聞かせボランティア、ICC 文庫ボ ランティア、学校支援ボランティアに よる読書や教科等での協力体制の充実 をさらに図り、その様子を学校HP、各 種たより、校内放送等を通じて情報発信 し、活動への理解を深めていく。 4年生の福祉出前講座(総合)、5年 生の自動車工場見学(社会科)や環境出 前講座(総合)、6年生の宮っこ『夢』教 室(総合)、情報モラル教育等、学習のね らいに則した出前授業を積極的に活用 し、企業と連携を図りながら教育活動を 充実させる。</p>
<p>6- (1) 安全で快適 な学校施設 整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の 安全に配慮した環境づく りに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全 に配慮した環境づくりに努め ている。(校内の施設、設備、 駐車場等)」⇒地域の肯定的回 答85%以上</p>	<p>①校内の施設、設備及び校庭の遊具等 について定期的な安全点検を徹底 し、危険箇所については迅速な対応 に努める。 ②危機管理マニュアルを全職員で確 認し、避難訓練や引き渡し訓練等を 通して、事前事後指導を丁寧に行 い、不測の事態への対応に備える。 ③掲示等の校内環境を整備したり、安 全に関する行事の実施方法を検討 したりする等、利用する人それぞれ が自発的に安全に気を付けられる よう配慮する。</p>	<p>【達成状況】 地域住民の肯定的回答は92.9%で、 目標を達成した。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。 安全点検を継続的にを行い、危険箇所 については迅速に対応し、関係機関と連携 しながら安全管理を徹底するよう努め る。 また、今年度、竜巻発生の際に安全な 場所を掲示物で示したように、引き続 き、利用する人の安全に配慮した環境づ くりを行いたい。</p>

<p>6-(2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータ等のデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。</p> <p>【数値指標】 A20 コンピュータ等のデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業（授業準備も含む）や業務に、デジタル※を積極的に活用している。」 ※デジタル・・・一人一台端末、学校用グループウェア、校務支援システム、デジタル連絡ツール等⇒教職員の肯定的回答85%以上</p>	<p>①教室のデジタル機器（実物投影機等）を整備したり、有効な物品を教職員で共有したりして、常に問題なく使いやすい状態になっているよう、学習環境を整える。</p> <p>②1人1台端末の管理を適切に行い、効果的な教材を共有することで、学習活動が円滑に行えるよう取り組む。端末使用の約束については保護者にも周知する。</p> <p>③ICT支援員と連携し、児童が授業等において、1人1台端末を効果的に活用できるように支援し、主体的・対話的で深い学びを促進し、児童の情報活用能力を育成する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は97.9%で、目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 今年度の取組を継続しながら、1人1台端末の適正な利用について児童に指導するとともに、端末使用の約束を保護者にも定期的に周知し、端末の破損事故を防ぎ、正しい使い方を身に付けさせる。</p> <p>A ICT支援員と連携して、教材研究に取り組んだり、授業において端末を効果的に活用したりする等、授業の質を高めていく。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じた挨拶をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、時と場に応じた挨拶をしている。」⇒児童の肯定的回答85%以上 「児童（生徒）は、時と場に応じた挨拶をしている。」⇒地域の肯定的回答85%以上</p> <p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」⇒児童の肯定的回答85%以上</p>	<p>①児童が主体となって取り組む挨拶運動等についてHPや各種たより、回覧板等も活用して積極的に発信し、挨拶の啓発を行う。</p> <p>②児童会活動を通して、挨拶の仕方や大切さを伝え、児童が自ら挨拶できるようなきっかけづくりを行う。また、学級活動や道徳科等の授業を通して、発達段階に応じ、挨拶の意義や心的効果について指導し、校内及び地域の方々への自発的な挨拶の啓発に努める。</p> <p>③生活目標を「泉が丘小学校の一日」と関連付けて提示し、日々振り返ることで、秩序ある充実した学校生活を送ることができるようにする。</p> <p>④生活当番による児童の実態に合わせた「生活目標」の焦点化と、目標達成に向けた指導を行うとともに、帰りの会等で振り返りを行い、達成状況を確認する。</p> <p>⑤決まりやマナーを守った行動に対し、児童が互いに認め合う機会や教職員の称賛によって意識付けながら自己指導能力の育成を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は92.1%、地域の肯定的回答は85.7%でそれぞれ目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 時と場に応じた挨拶やマナー、言葉遣い等について指導を継続し、地域の方々への自発的な挨拶の啓発に努める。</p> <p>「あいさつ運動」については、児童会が主体となり、今年度の取組を継続していく。</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答は91.6%で高い達成状況である。</p> <p>【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。 「泉が丘小学校の一日」のきまりを基準とした生活指導の徹底を図る。</p>
	<p>B3 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。</p> <p>【数値目標】 全体アンケート 「児童は、休み時間や放課後等に積極的に運動している。」⇒児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>①児童が扱いやすい体育用具等を整備し、児童の運動への興味・関心を高める。</p> <p>②保健領域と関連付け、健康の保持増進のために、自己の健康に関心をもたせるとともに、運動に親しませ、外遊びを奨励する。</p> <p>③体育科の授業での課題選択できる場の設定、各種検定等の実施、運動委員会主催による集会等、児童が進んで運動できる機会を創出する。</p> <p>④新体力テストの結果を活かしながら、授業で補強運動に取り組む等、基礎体力や運動技能の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は71.8%で、昨年度を3.8%下回り、目標を達成できなかった。</p> <p>【次年度の方針】 夏は室内で過ごすことが多くなり、放課後には習い事に通う児童が増えていること等、児童を取り巻く環境や状況の変化も原因として考えられる。</p> <p>今年度の取組を継続しながら、運動委員会によるイベントの企画、体育用具の整備や更新等を行い、児童の運動への意欲を高められるような環境を整えていく。</p> <p>また、体育科での学びが休み時間に広がるような授業を展開していく。</p>

<p>B 4 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、学校だよりや学校公開等で、積極的に情報を発信・提供している。」⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①さくら連絡網を活用して各種たよりや連絡事項等を速やかに伝達し、家庭への周知を図る。</p> <p>②学校HPの内容の充実・広報の工夫により、児童の活動の様子について、積極的な情報発信に努める。</p> <p>③授業参観やオープンスクールを実施し、保護者や地域住民へ積極的に学校を公開し、地域と共にある学校を目指す。</p> <p>④地域協議会を中心に地域と学校が目標を共有し、一体となって教育活動や環境整備の充実を図る。 (A18 再掲)</p>	<p>B</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は 95.7%で、目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 さくら連絡網では連絡事項の速やかな伝達、学校HPでは学校や学年での児童の活動の様子の伝達と、2つのツールを有効活用しながら情報の発信を工夫していく。</p> <p>年間4回、授業参観やオープンスクールを行うことで学校での教育の様子を保護者・地域に公開していく。</p> <p>地域協議会や民児協関係者との情報交換会で授業力向上や児童指導に関する情報の共有を図りながら地域との連携をさらに高めていく。</p>
<p>B 5 学校は、地域の自然や環境、人材を積極的に活用し、豊かな教育活動を推進している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、地域の自然や環境、人材を積極的に活用しながら、豊かな教育活動を推進している。」⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①児童の実態や発達段階を踏まえ、各教科・領域において地域の教育資源や人材、資料等を活用し、地域のよさについて理解させる。</p> <p>②生活科・総合的な学習の時間の学習活動や花壇・農園整備等において、地域や保護者から構成される学校支援ボランティアを積極的に活用しながら、学習活動や学習環境の充実を図る。</p> <p>③地域から学校支援ボランティアを募集し、地域との協働体制の充実を図るとともに、ご協力いただいている活動の様子を校内掲示や学校HP、学校だより等で広く周知する。また、振り返りの場を設け、礼状を書く等して児童に感謝の気持ちをもたせる。 (A18 再掲)</p>	<p>B</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は 92.8%で、目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 1・2年生の生活科や3年生の社会科見学、小中合同越戸川清掃で近隣の施設や公共機関等、地域の教育資源を積極的に活用していく。</p> <p>2年生のさつまいもの苗植えや芋ほり、5・6年生の栽培委員による星型花壇での花植え等、学校支援ボランティアや地域の方との協働作業等により、教育効果を高めていく。</p> <p>読み聞かせボランティア、ICG文庫ボランティア、学校支援ボランティアによる読書や教科等での協力体制の充実をさらに図り、その様子を学校HP、各種たより、校内放送等を通じて情報発信し、活動への理解を深めていく。</p>

### 〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所には下線を付ける。

<p>【学校運営】</p> <p>・教職員が回答対象者であるA15「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」では、肯定的回答は100.0%であった。また、A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」では、肯定的回答は89.6%で7.8ポイント上昇した。引き続き、同僚性の高い教職員集団となるよう、協働して学び合う体制を維持し、教育目標の共通理解と共通実践を図っていききたい。また、児童と向き合うための時間や授業の質を高めるための授業準備の時間を十分に確保し、効果的な教育活動を行うことができるよう、業務改善に取り組んでいきたい。</p> <p>○A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」では、児童の肯定的回答は88.4%で10.9ポイント上昇し、教職員及び地域住民の肯定的回答は100.0%と良好な結果が得られた。保護者は87.3%で3.6ポイント上昇し、市平均と比較しても6.2ポイント上回っている。今年度は、越戸せせらぎ通り周辺清掃（小6・中1）や宮っこチャレンジでの児童と生徒との交流の他、「朝のあいさつ運動」に小中合同で取り組み、明るく元気なあいさつが学校に根付き、あいさつが活性化されたことへの評価が数値に表れたと考えられる。今後は活動の様子について、学校HPを中心にさらに分かりやすく伝えるとともに、中学校が隣接している利点を生かした連携について、再検証し、よりよい取組を進めていきたい。</p> <p>・B4「学校は、各種たよりやHP、学校公開等で、できる限りの情報を発信・提供している。」では、教職員及び地域住民の肯定的回答は100.0%と良好な結果が得られ、保護者は95.7%で2.8ポイント上昇した。今年度は、児童の様子や教育活動の取組について、積極的に学校HPで情報提供に努めたことが評価に結び付いたと考える。</p> <p>【学習指導】</p> <p>・A6「児童は、英語を使ってコミュニケーションをしている。」では、児童の肯定的回答は85.0%で2.6ポイント、教職員は100.0%で11.4とポイント上昇し、良好な結果が得られた。教職員については、市平均と比較しても5.8ポイント上回った。本校では3か年かけて、外国語活動・外国語科の研究を教職員が一体となって推進しており、授業改善の成果が評価に結び付いたと考えられる。本校の実態調査からも「外国語の授業に対する興味関心」や「全体の前で発表したり話し</p>
---

たりする意欲」,「英単語や英文の読み書き」等について,向上している様子が明らかとなっている。

・A7「児童は,宇都宮の良さを知っている。」では,児童の肯定的回答は89.1%で3.0ポイント,保護者は82.1%で7.0ポイント上昇し,良好な結果が得られた。保護者については,市平均と比較しても8.1ポイント上回った。5・6年生対象の「宇都宮学」が定着してきたことや,他教科の授業や各種行事,給食・食育指導等との連携を図ってきたことが評価につながったと考えられる。今後も学習効果の最大化を図るためのカリキュラム・マネジメントに努めていきたい。

・A9「児童は,『持続可能な社会』について,関心をもっている。」では,児童の肯定的回答は89.5%で1.7ポイント,教職員は81.3%で10.8ポイント上昇し,良好な結果が得られた。各教科や総合的な学習の時間等において,SDGsの取組について体系的に学び,学校生活において自分でできることから行動を積み重ねることができるよう配慮してきた結果が表れている。引き続き,子どもの世界観を広げ,自分と社会とのつながりを考えさせていきたい。

#### 【生活指導・児童生徒指導】

・B2「児童は,きまりやマナーを守って,生活している。」では,児童の肯定的回答は91.6%で数値指標を達成した。教職員は97.9%で9.3ポイント上昇し,市平均と比較しても8.2ポイント上回っている。保護者の肯定的回答は94.4%で1.9ポイント上昇し,市平均と比較しても3.1ポイント上回っている。児童指導主任が学校全体の児童指導を組織的・有用的に運営し,教職員が共通理解のもと,児童のきまりやマナーを守る意識を育てていることが,良好な結果に結び付いたと考えられる。一方,地域住民の肯定的回答は85.7%で9.0ポイント下降した。学校公開日を設ける等,児童の姿やよりよい成長のための取組について共有する機会を増やしていきたい。

・A3「児童は,目標に向かってあきらめずに,粘り強く取り組んでいる。」では,児童の肯定的回答は88.3%で数値指標を達成したが,保護者は82.8%で4.0ポイント下降した。目標を成し遂げたときの達成感や最後まであきらめないことの大切さについて,児童に体験を通して実感させ,児童と保護者がともに満足いく結果につながる教育活動を進めていきたい。

・A11「教職員は,いじめがゆるされない行為であることを指導している。」では,児童の肯定的回答は97.3%で数値指標を達成したが,保護者は82.4%で3.7ポイント下降した。A12「教職員は,不登校を生まない学級経営を行っている。」では,教職員の肯定的回答は100.0%で数値指標を達成したが,保護者は88.2%で6.0ポイント下降した。A13「学校は,一人一人が大切にされ,活気があり,明るくいいきとした雰囲気である。」では,保護者の肯定的回答は86.6%で6.1ポイント下降した。これらの設問では,いずれも保護者から厳しい評価を受けた。児童が安心して学ぶことができる誰一人取り残されない学びの保障に向けて,児童に徹底的に寄り添うとともに,校内組織の体制を強化していきたい。

○B1「児童は,時と場に合ったあいさつをしている。」では,児童の肯定的回答は92.1%,地域住民は85.7%で数値指標を達成した。教職員の肯定的回答は93.8%で12.0ポイント上昇し,保護者については88.2%で,市平均を4.7ポイント上回る良好な結果を得られた。今年度は,学校全体をあげて「あいさつ運動」に取り組んだことで,挨拶が活発化し校内の雰囲気明るくなり,児童同士のコミュニケーションが円滑化したことが良い結果につながったと考えられる。今後も「あいさつ運動」については,中学校や家庭とも連携しながら継続して取り組み,児童が挨拶の意義を理解し地域においても進んで挨拶ができるよう指導していきたい。

#### 【健康(体力・保健・食・安全)】

・A4「児童は,健康や安全に気を付けて生活している。」では,児童の肯定的回答は90.9%で数値指標を達成したが,教職員は91.7%で6.0ポイント下降,保護者についても89.7%で4.5ポイント下降した。教職員が,課題点を的確に把握し,次年度の取組への改善につなげていきたい。

・B3「児童は,休み時間や放課後等に積極的に運動している。」では,児童の肯定的回答は71.8%で3.8ポイント下降し,数値指標を達成できなかった。また,保護者についても77.2%で2.2ポイント下降した。児童が健康や運動の必要性を自分事として実感し,体育の授業での学びが休み時間や放課後に広がったりするような授業を実践し積み重ねていくことが重要であるとする。また,休み時間に率先して外遊びができるよう,運動委員会の取組や担任からの声掛け等を工夫していきたい。

## 7 学校関係者評価

・地域から見て,学校の様子は概ね高評価である。学校目標や教育理念の共有は,とても大切なことである。

・「あいさつ運動」が学校に根付き成果が表れている。地域での児童からの自発的な明るい挨拶が聞こえるようになり,地域が明るくなったという意見が上がっている。また,児童から「いつもありがとうございます。」等の思いやりのある言葉も添えられ,泉が丘地区全体が朗らかで和やかな雰囲気となっている。

・以前に比べ,多くの児童が挨拶をしてくれるようになった。大人から先に声を掛けることも大切であり,今後も積極的に声を掛けていきたい。

・下校指導の際に,第1・2学年の児童が大きな声で元気に挨拶をしてくれ,将来が楽しみである。教職員がよく指導している成果が表れている。下校時の見守り隊で帯同している時も,殆どの児童が元気な挨拶をしている。

・体育の授業では,児童が元気に挨拶をし,自主的に準備を進め授業に臨んでいる。教職員の指導がよく児童に伝わっていると感じる。また,授業の中で,自主性・協調性・協力等の姿勢が,自然なふるまいとして児童から感じられる。

・情報化社会,価値観の多様化等,時代の急速な流れの中,学校は大変だと思うが,児童の将来に役立つ基本をしっかり教え

てあげてほしい。

- ・明るく元気な児童が多いように感じる。すべての児童の道が広がるように、児童の成長を支えてほしい。
- ・ICC文庫と連携した「表現クラブ」の活動では、児童が堂々とした態度で積極的に発表し、児童が人前で自信をもって話すことができていると感じている。指導の成果が表れているのであろう。
- ・ICC文庫の人形劇公演では、集中して観劇したり、面白い場面ではよく反応したりする等、児童の聞く態度がすばらしい。明るく素直な児童の姿に、楽しい学校生活の様子が伺える。
- ・第2学年での「泉っ子まつり」に参加した際、児童がまつりに招待した園児に対し、自然で優しい関わりができており、思いやりの心が育っていると感じた。
- ・不登校児童の現状について心配している。家庭での親子のふれあいも大切にしてほしい。
- ・A11「教職員は、いじめがゆるされない行為であることを指導している。」では、教職員と保護者との肯定的回答に差が見られる。保護者は、1人の親1人の子どもとして考え、よりきめ細かな対応を求めているのではないか。それに対し、教職員は全体として捉え指導している、といった意識の違いがあるのではないか。
- ・宇都宮市内では、登下校時以外の交通事故が増えている。主な原因は、飛び出しや自転車でのスピードの出し過ぎである。本学区は、道路が狭く見通しの悪い交差点が多いため、本校児童も交通安全には十分気を付けてもらいたい。
- ・絶対に守らなければならないのは、児童の命、学校安全である。児童自身が危険を察知し、回避する能力を身に付けることも重要であり、皆で考えていきたい。
- ・引き続き、働きやすい職場づくりを目指し、教員を希望する若者を育成してほしい。
- ・コロナ禍が明けて、教職員が児童と接する時間を増やし、スキルアップを図ろうとしている姿を見ることができた。
- ・学校教育においては100%を求めるのではなく、支援を要する児童への指導に重点を置くことも大切である。

## 8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所には下線を付ける。

- ・次年度も、教職員同士が互いを尊重し、協力し合い支え合う関係を築いていきたい。引き続き、教職員一人ひとりが安心して働くことができ、互いに学び合い成長できる同僚性の高い教職員集団を目指していく。
- 小中学校間の交流を深め、中学校と連携した「あいさつ運動」を推進し、児童の社会性や成長を促していきたい。次年度は、地域社会においても児童の挨拶がさらに活性化するよう、「あいさつ運動」を工夫していきたい。
- ・学校HPについては、各学年の取組についても効果的に情報を発信できるよう努めていきたい。
- ・外国語活動・外国語科については、教職員の指導力向上や児童の興味関心を引き出すような教材の工夫、習得した外国語を実際に使える場面の設定、ICTを活用した授業展開等、効果的な研修を積み重ねていきたい。
- ・学校全体で、ルールを守ることの大切さを教え、児童の意識を高めながら、基本的な生活習慣やマナーを身に付けられるようにする。また、地域社会においても、児童のルールを守る意識を高められるような啓発をしていきたい。
- ・いじめや不登校については、早期発見・早期対応に努め、教職員が共通理解のもと個々の状況に応じた適切な支援を丁寧に進めていきたい。そのためにも、校内体制の在り方を見直し、強化を図るとともに、家庭や関係機関と連携し効果的な支援ができるよう努めていきたい。
- ・健康に関しては、児童の意識が高まる取組を継続して行い、啓発や情報発信の仕方を工夫していく。また、校内でのけがの予防や食育における健康面についての指導も計画的に進めていきたい。
- ・運動委員会によるイベントにおいて多様な運動種目を体験できる機会を設けたり、体育の授業において仲間と運動する楽しさや目標を達成する喜びを味わわせたりする等、児童の運動への意欲を高める教育活動を継続していきたい。